

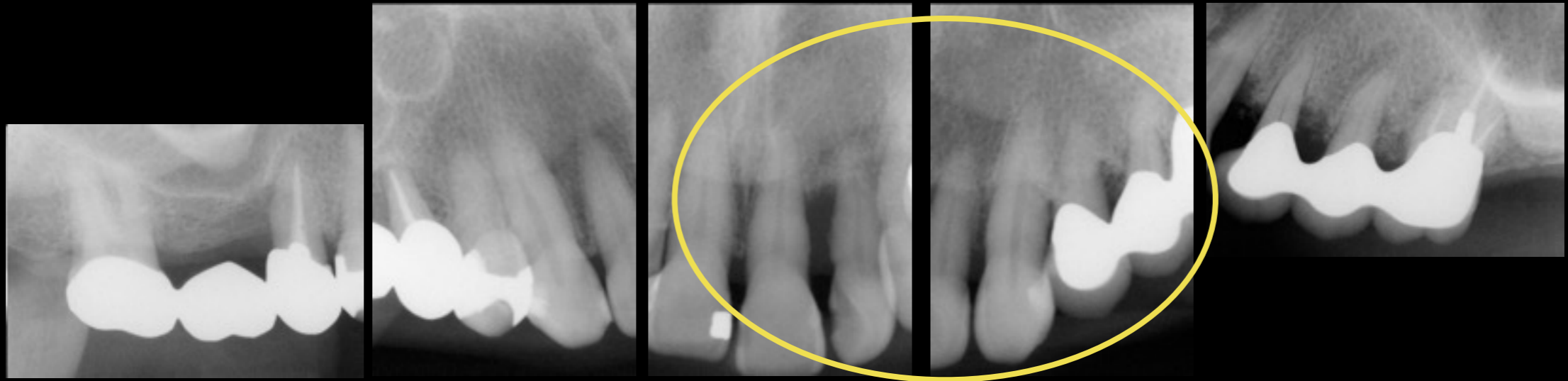
歯周補綴におけるインプラントの役割

～矯正治療との連携～

大阪市北区開業 Serendipityかわさと歯科 川里 邦夫



主訴) 歯が磨きにくい、右下Brの脱離



初診) 2003.12.09. 62才 女性

歯科的既往歴 :

十数年来の未治療



全身的既往歴 : なし

齒 & 齒列

不適合補綴物

7 6 5 4	4 5 6
7 6 5	4 5 6 7



轉位齒

	1 2 3
2 1	1 2

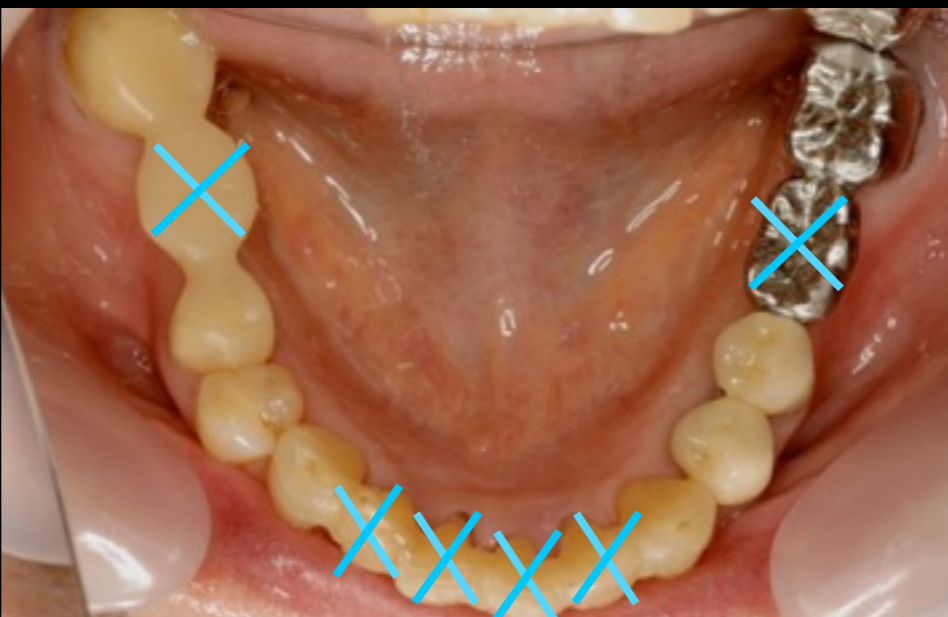


欠損齒

6	7
6	6

保存不可能齒

2 1	1 2
-----	-----



他: **U-1 Asymmetry**

齒周組織

Over 4mm

5	1	1	2	3	4	5	6
5	2	1	1	2	4	5	7



動搖齒 : class I

7	5	1	3	4	5	6
7	5	4	3	3	4	5

mob	I			I			I			I			II			I			I			I			I																	
B	3	2	2	6	4	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	2	4	3	2	9	9	2	3	7	3	6	4	2	6	4	3	4	4	3	3							
P	3	3	3	7	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3	9	9	7	8	9	6	6	6	5	3	6	4	3	5	4	2	3						
	7			6			5			4			3			2			1			1			2			3			4			5			6			7		
	7			6			5			4			3			2			1			1			2			3			4			5			6			7		
L	3	2	3	5	2	3	3	2	3	3	2	3	3	2	3	4	2	3	3	2	3	4	2	3	3	2	2	2	3	3	3	2	3	3	2	3	3	3	6			
B	3	3	3	5	4	3	2	2	3	3	2	2	4	2	4	4	3	4	4	2	3	4	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	4	3	3	4	3	3	4			
mob	I			I			I			I			II			II			II			II			I			I			I			I								
Fur																																										

動搖齒 : class II

	2
2	1

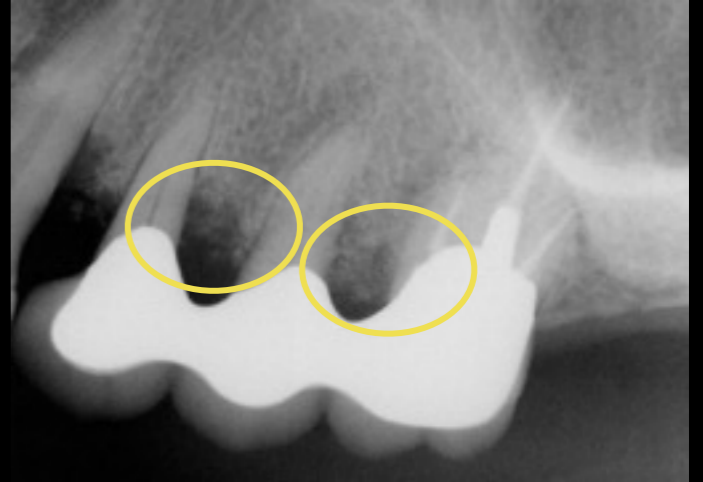
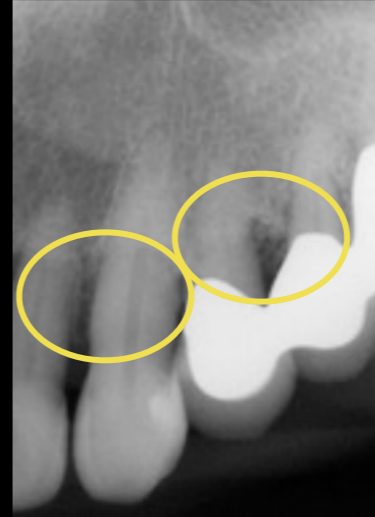
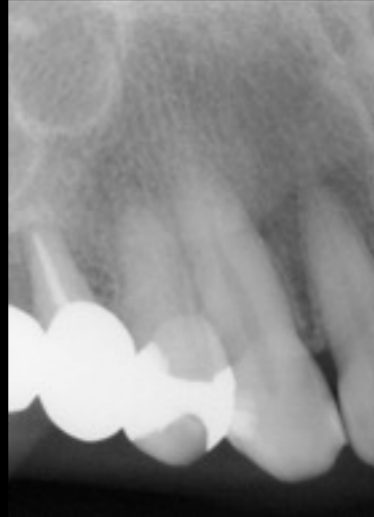
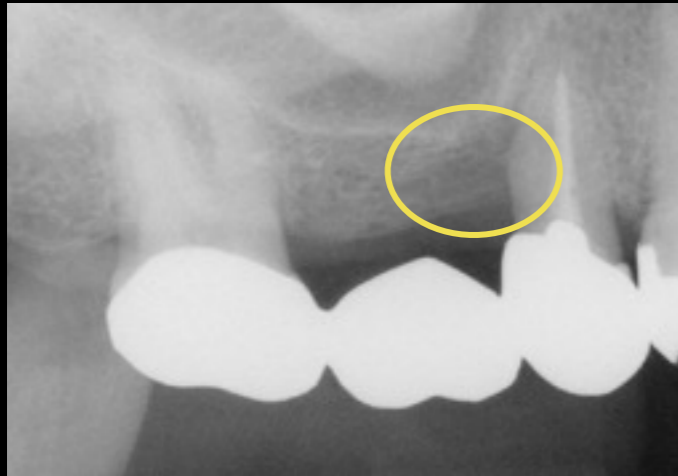


根分歧部病變

	class I
7	

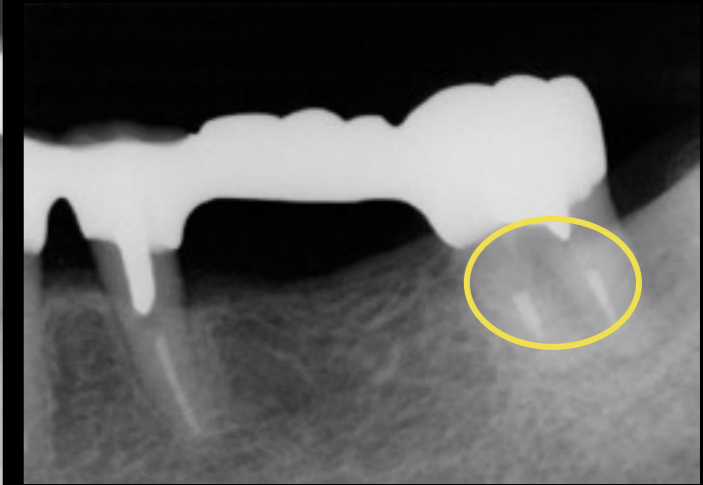
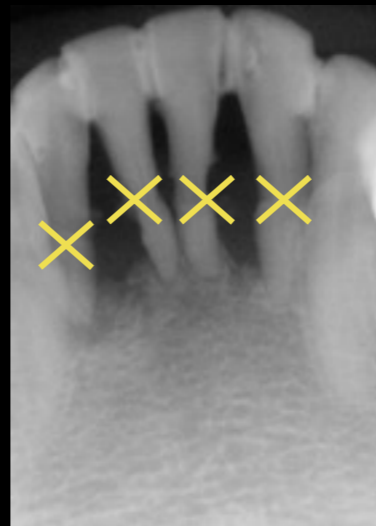
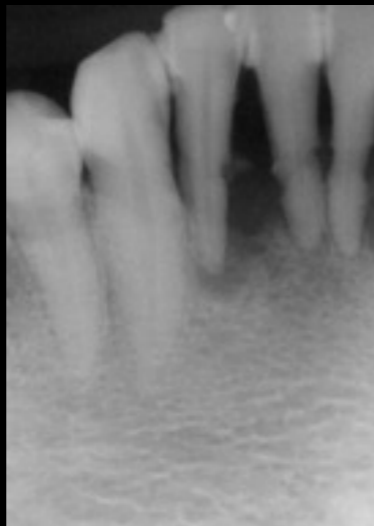
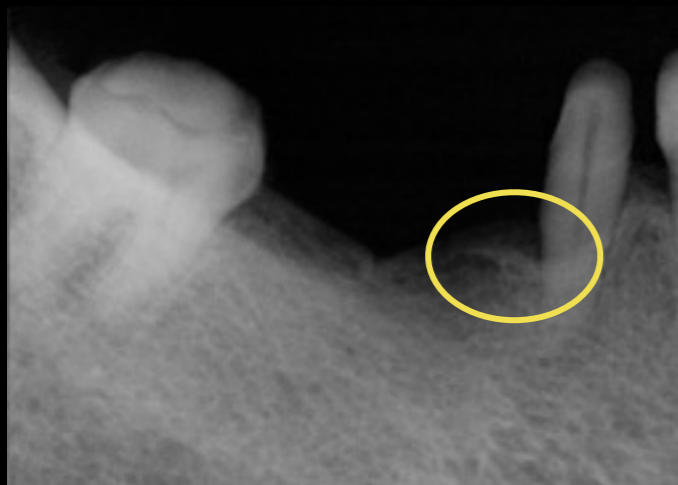
問題点

Periodontium



水平性骨欠損

片側性の垂直性骨欠損



骨内ポケット

広汎型重度慢性歯周炎

根分岐部病変

問題点

Occlusion



左側Ⅱ級



上下顎前歯軸の唇側傾斜

補綴治療の目的

- 機能の回復
- 審美性の改善
- 残存組織の保全

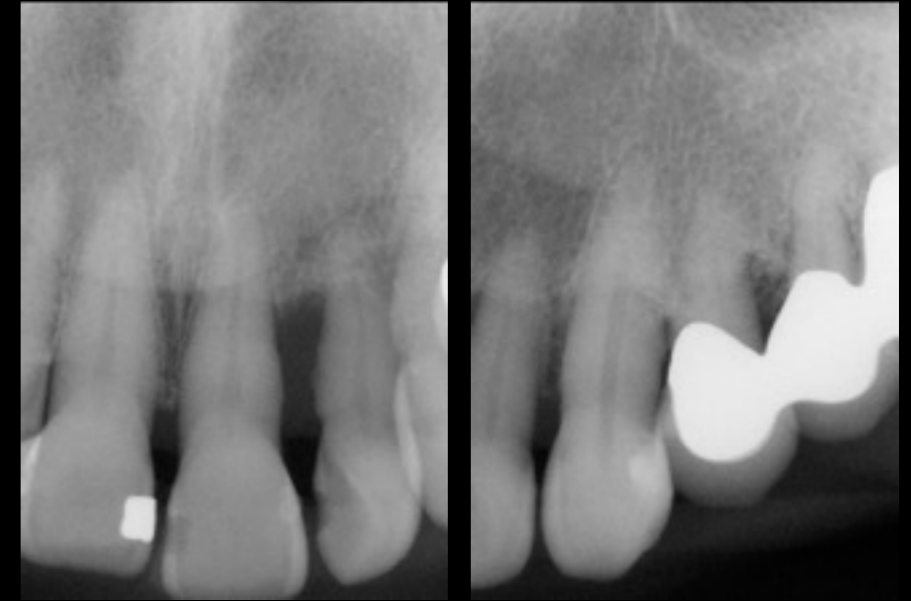
健全な歯質

健康な歯周組織

咬合安定

構造力学的安定

補綴治療の目的達成の ～ 戦略・戦術 ～



目的

機能の回復

審美性の改善

残存組織の保全



戦略

咬頭嵌合位の安定
臼歯離開咬合

上顎中切歯の位置
ジンジバルレベル

水平性骨欠損への対応
垂直性骨欠損への対応

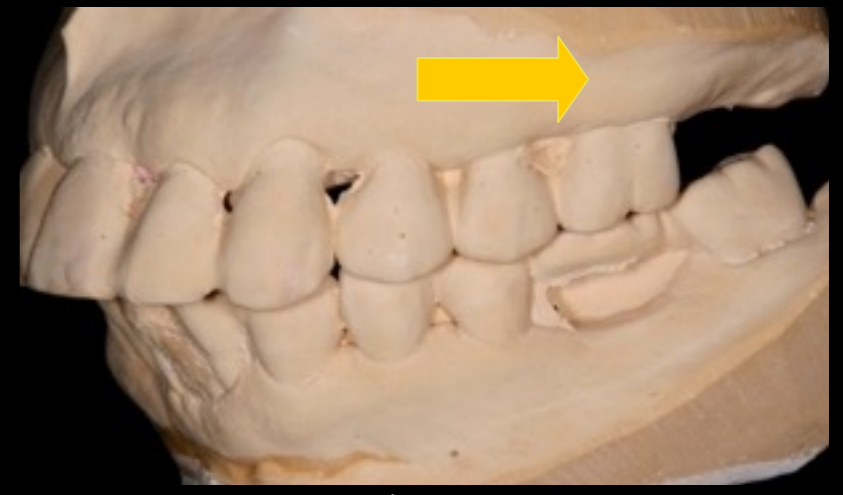
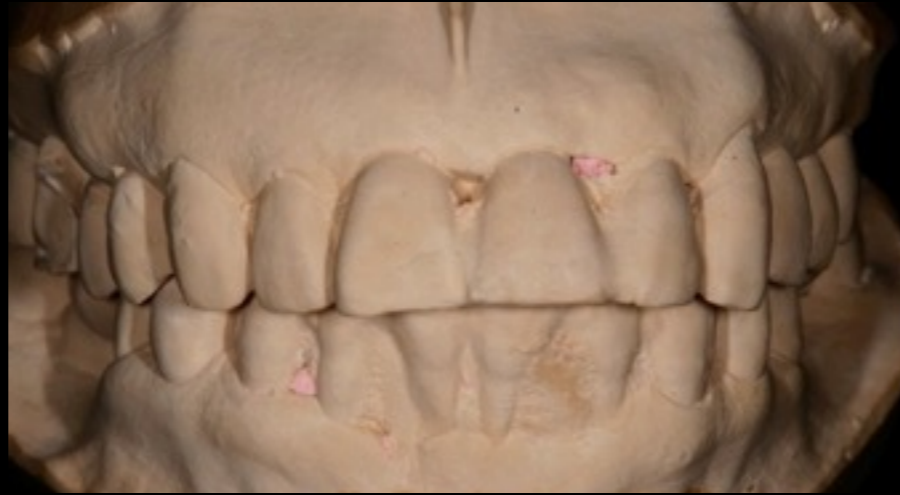
戦術

インプラント
矯正治療

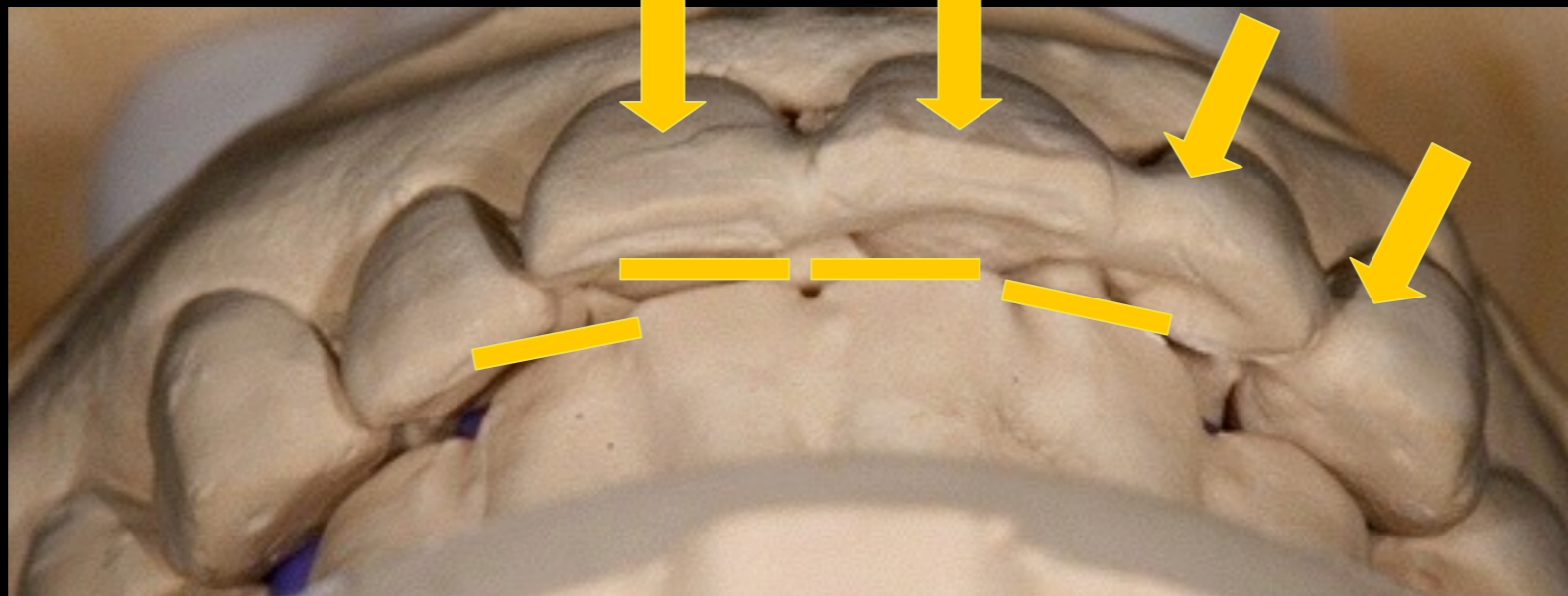
矯正治療
矯正治療

矯正治療
再生療法

アンテリアアカップリング



左側Ⅱ級



下顎前歯の挺出

上下顎前歯部のスペース

診断用ワックスアップ・Set up model



矯正後のイメージ



治療計画

TBI / SRP / プロビジョナルレストレーション /



垂直性骨欠損部に再生療法



矯正治療



水平性骨欠損部に歯周外科



インプラント



最終補綴



残存組織の保全



欠損部顎堤の吸収防止

垂直性骨欠損への対応

水平性骨欠損への対応



欠損部顎堤の吸収防止



中程度の力で**挺出**させた場合、歯周組織は、歯と一体となって動く



最終補綴物



術前

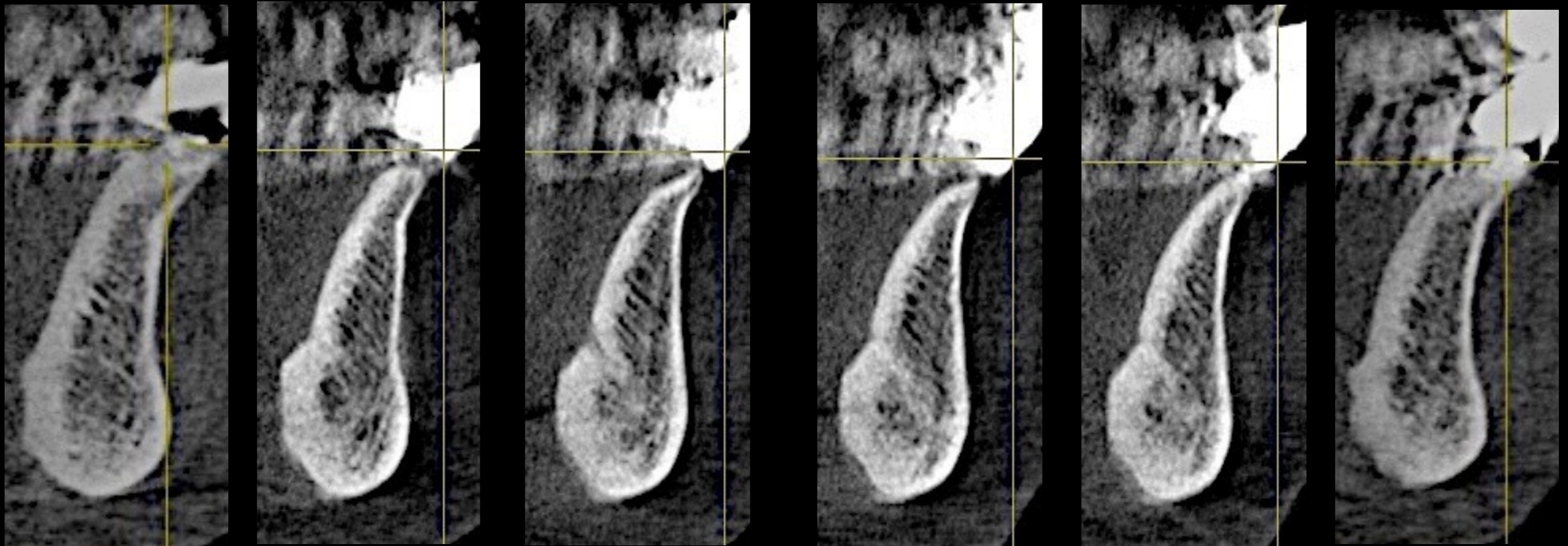


術後

欠損部顎堤の吸収防止

口腔

頬唇側



LR3m

LR2

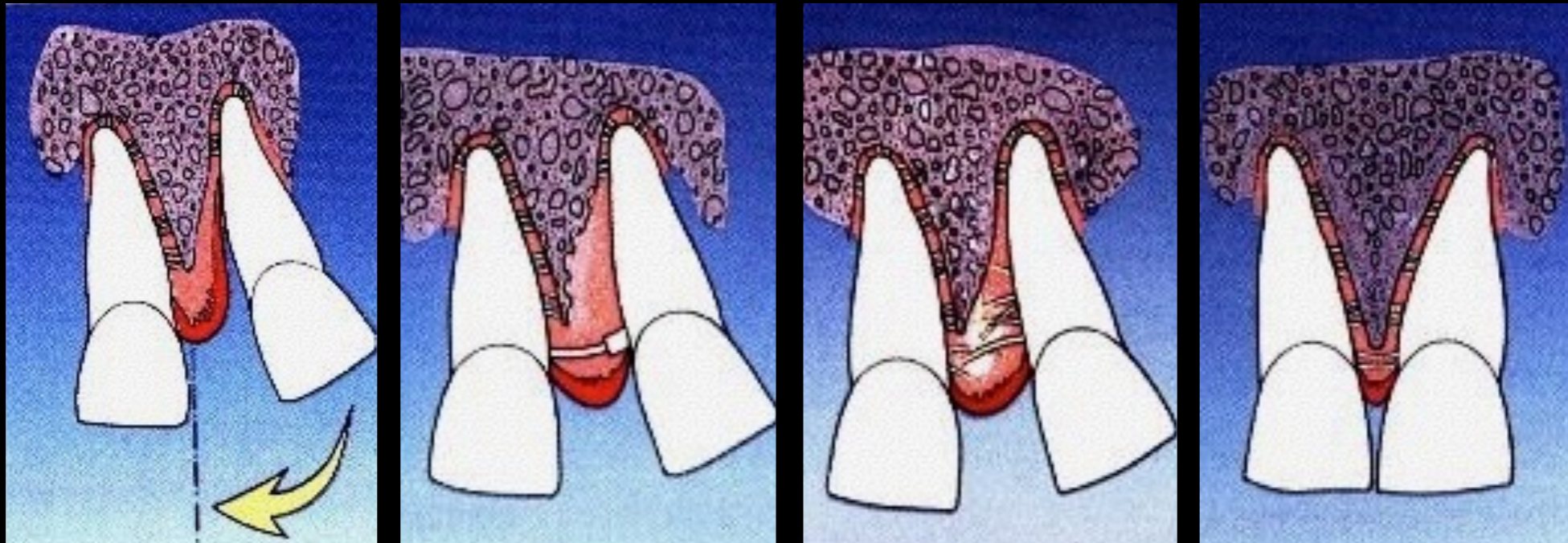
LR1

LL1

LL2

LL3m

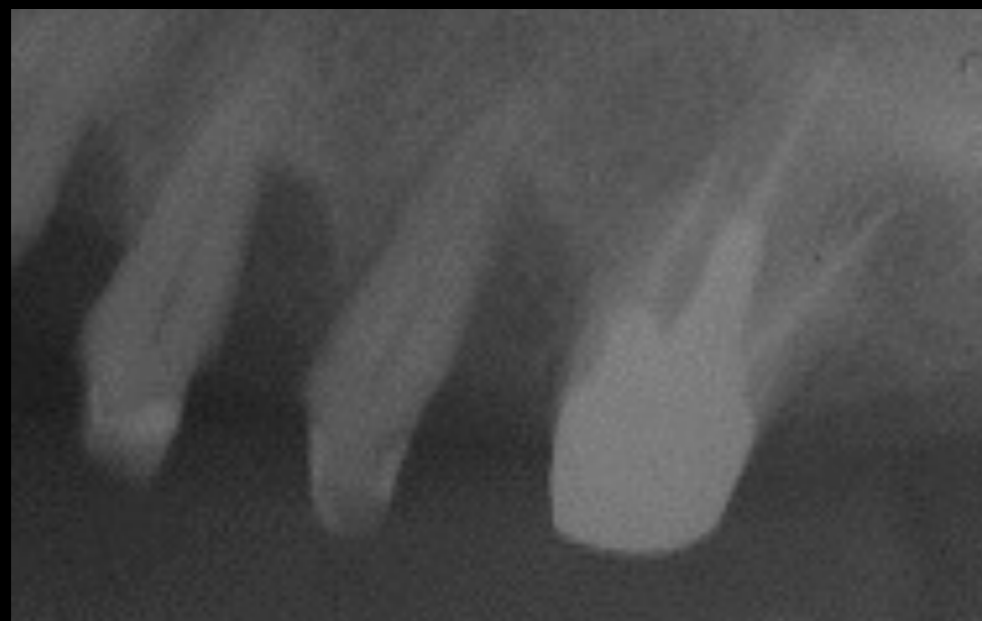
垂直性骨欠損への再生療法と矯正治療



矯正前の再生療法は、新しい結合的な付着で治癒する

このタイプの治癒は、矯正後の骨再生につながる

矯正的歯牙移動の終了時に骨が修復される



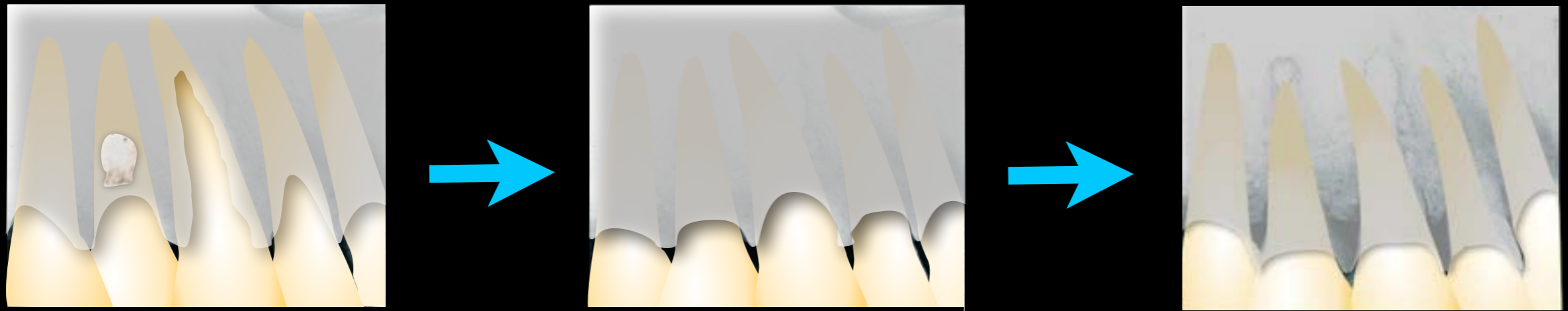
術前

術後

垂直性骨欠損への対応

水平性骨欠損への矯正治療

矯正的歯牙移動
(基底骨内移動)

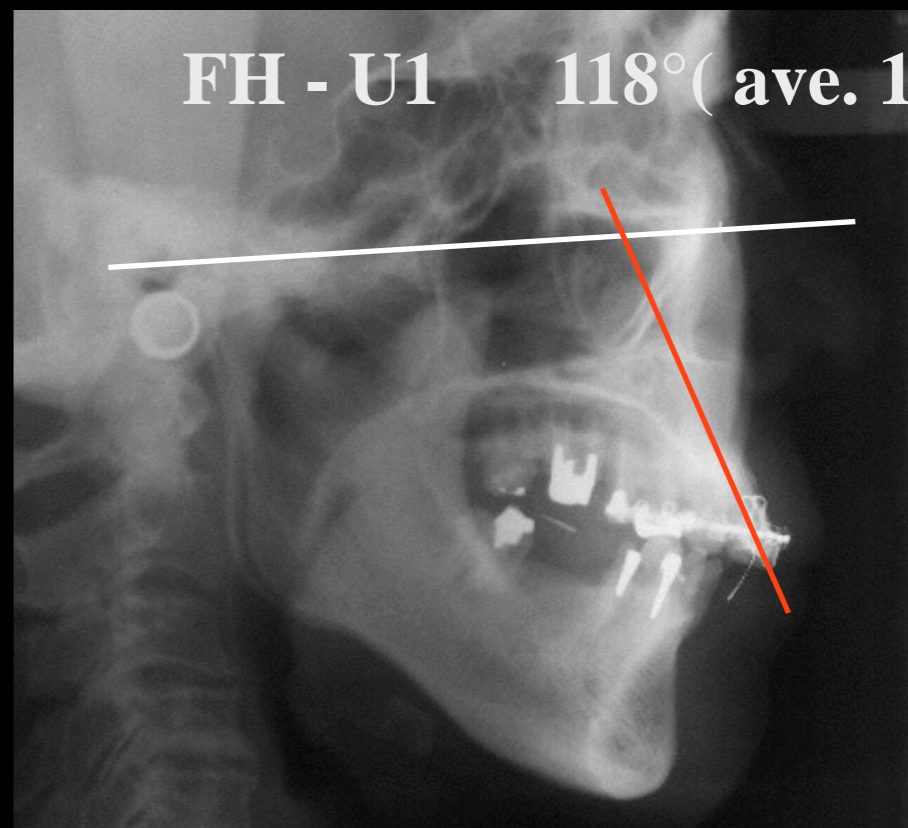


根を歯槽骨内の適切な位置に戻すように歯を移動させた場合、

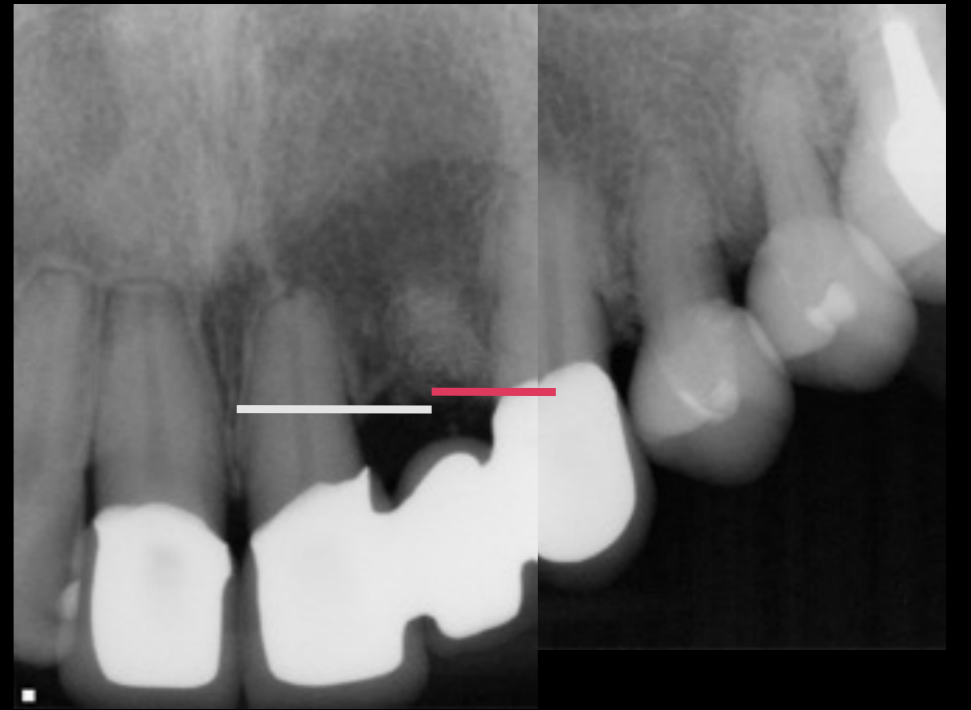
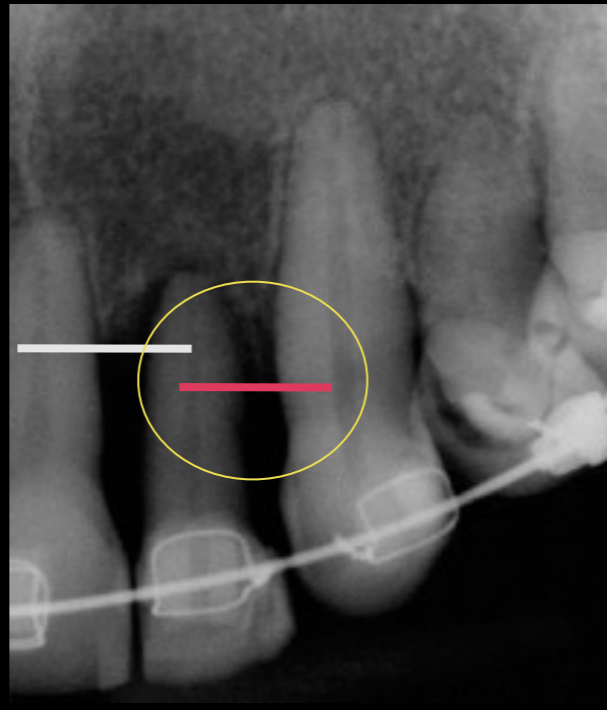
唇側の裂開部が回復した

アタッチメントレベルの変化は見られなかった

上下顎前歯軸の唇側傾斜の改善・基底骨内移動



FH - U1 118° (ave. 111°)



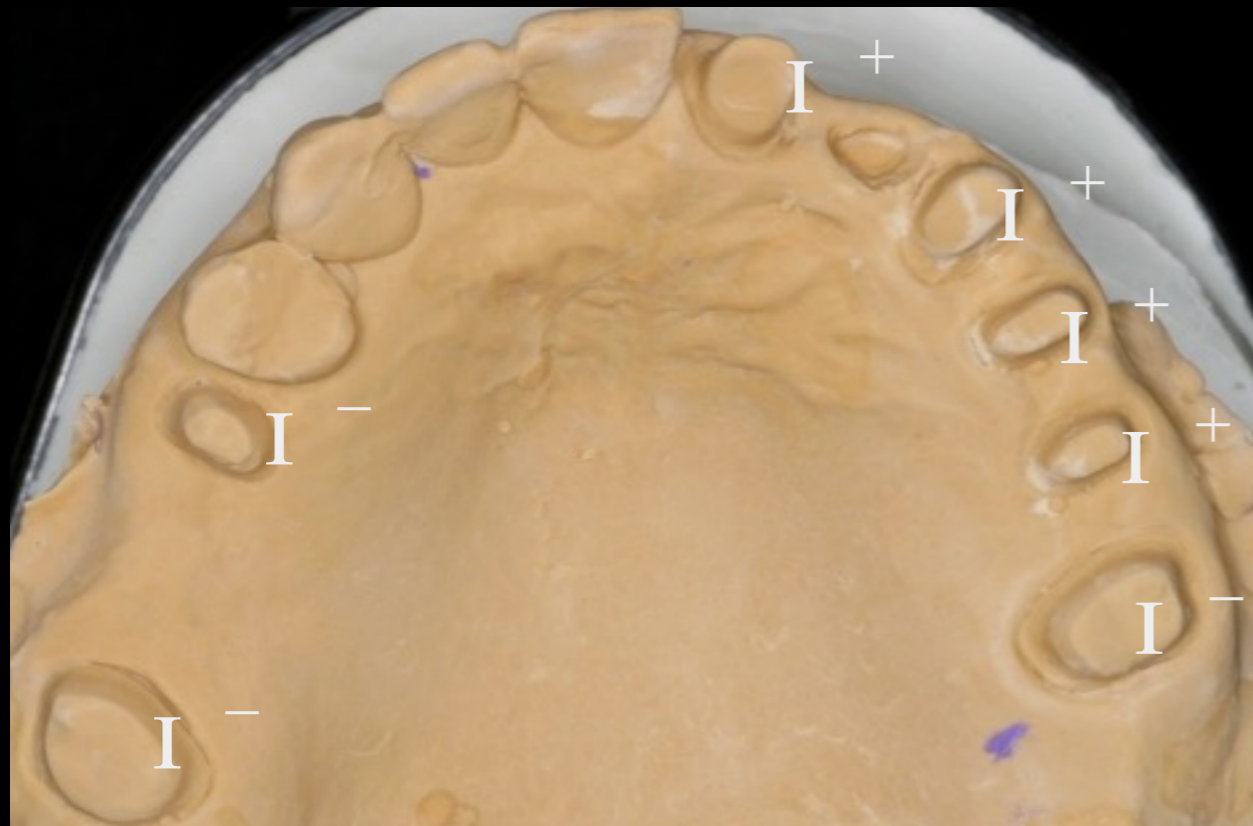
初診

矯正後

最終補綴

水平性骨欠損への対応

動揺歯のコントロール



Mobility teeth : class I

7 5

1 3 4 5 6

7 5 4 3

3 4 5 7

歯周補綴の目的

歯周補綴の第一の目的は、歯周疾患により歯の支持組織が減少し、非可逆的な動揺が見られる歯を補綴物によって**固定**し、歯列弓の保全と咬合の安定を図り、**あらゆる機能に十分に耐えうる歯列**を作り上げることにある。

**ただ、できるだけ連結固定は避けたい
補綴物によって固定する意外の方法はないのか？**

補綴治療におけるインプラントの役割

歯列弓の保全

歯列弓の連続性
動揺歯のコントロール

咬頭嵌合位の安定

残存歯の保護

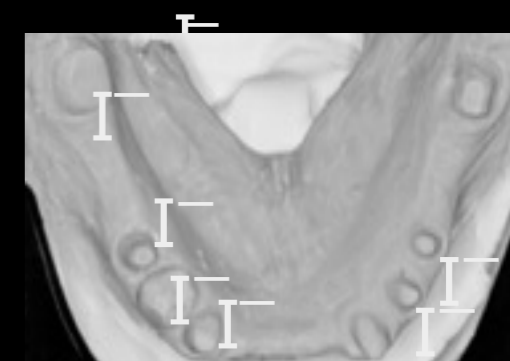
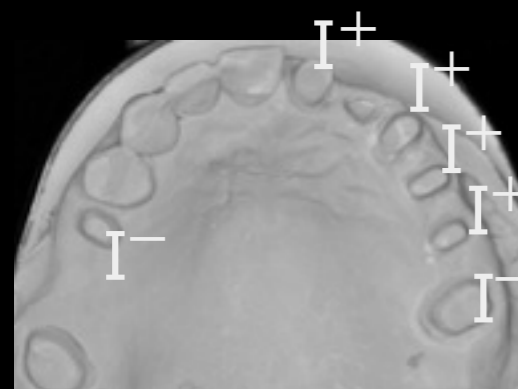
補綴設計の簡素化

クロスアーチスクロスプリントの回避

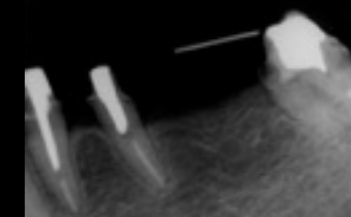
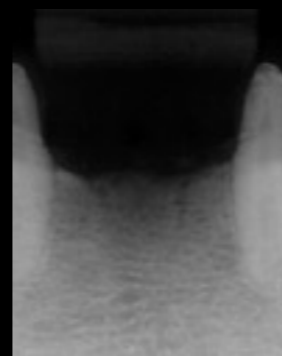
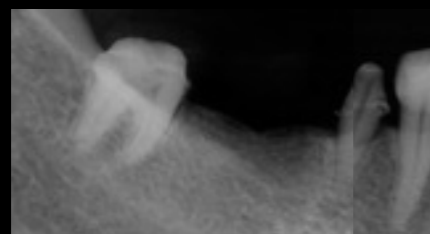


歯列弓保全と咬合安定のために

- 動揺歯の固定
- 欠損歯列への対応
- 構造力学



から補綴設計を考える



インプラント埋入

**Nobel Replace
Tapered Groovy
5×10mm**

同時に再生療法



**Nobel Replace
Tapered Groovy
5×8mm**



**Nobel Replace
Tapered Groovy
4×13mm**

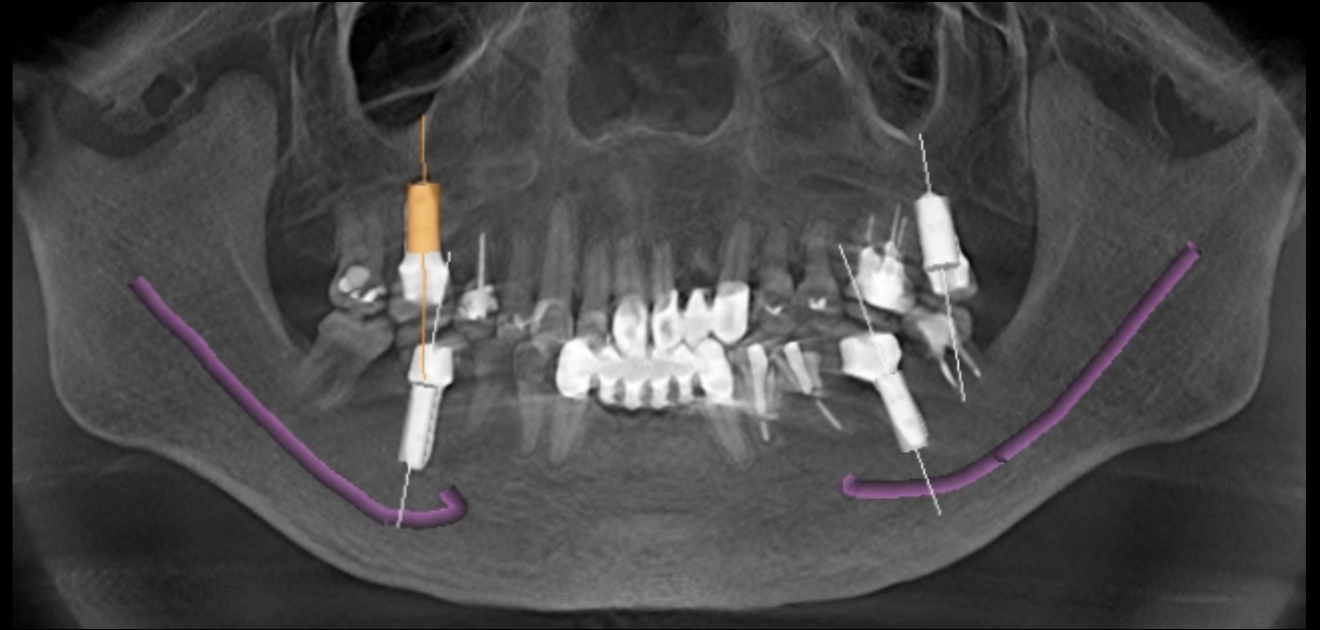
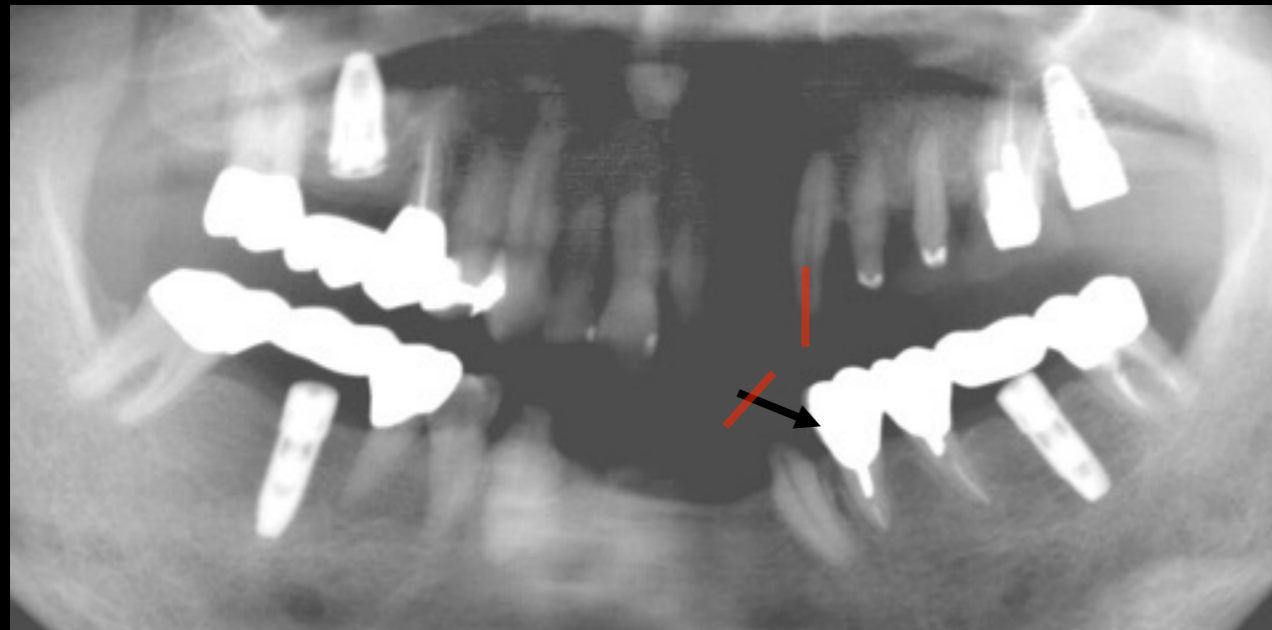


Nobel Replace Select

Straight TiU RP 4.3×11.5mm



最終補綴設計



△ 単冠

————— ブリッジ

■ インプラント



3unitブリッジとし、セパレート
動揺は残るが、移動はない

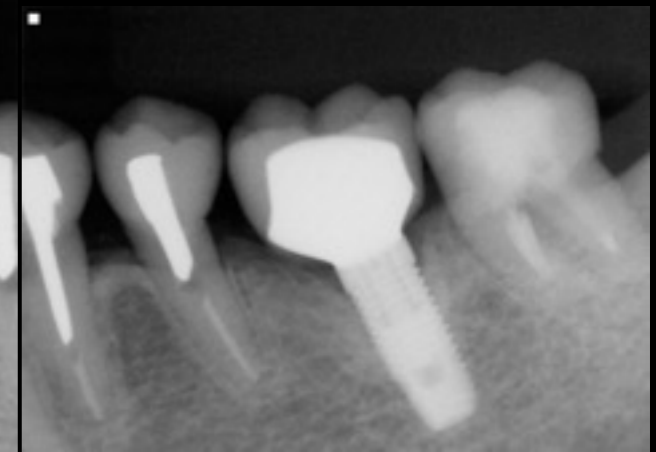
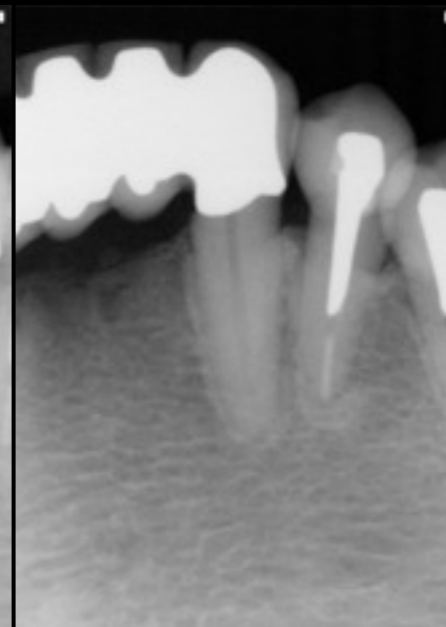
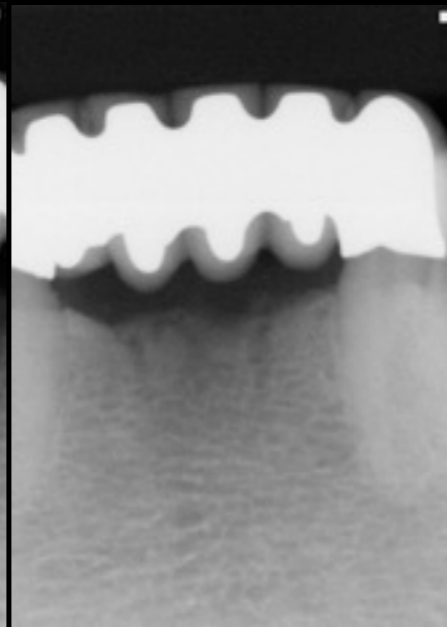
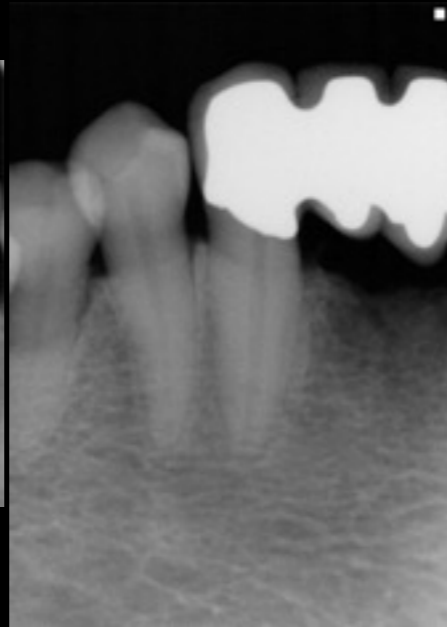




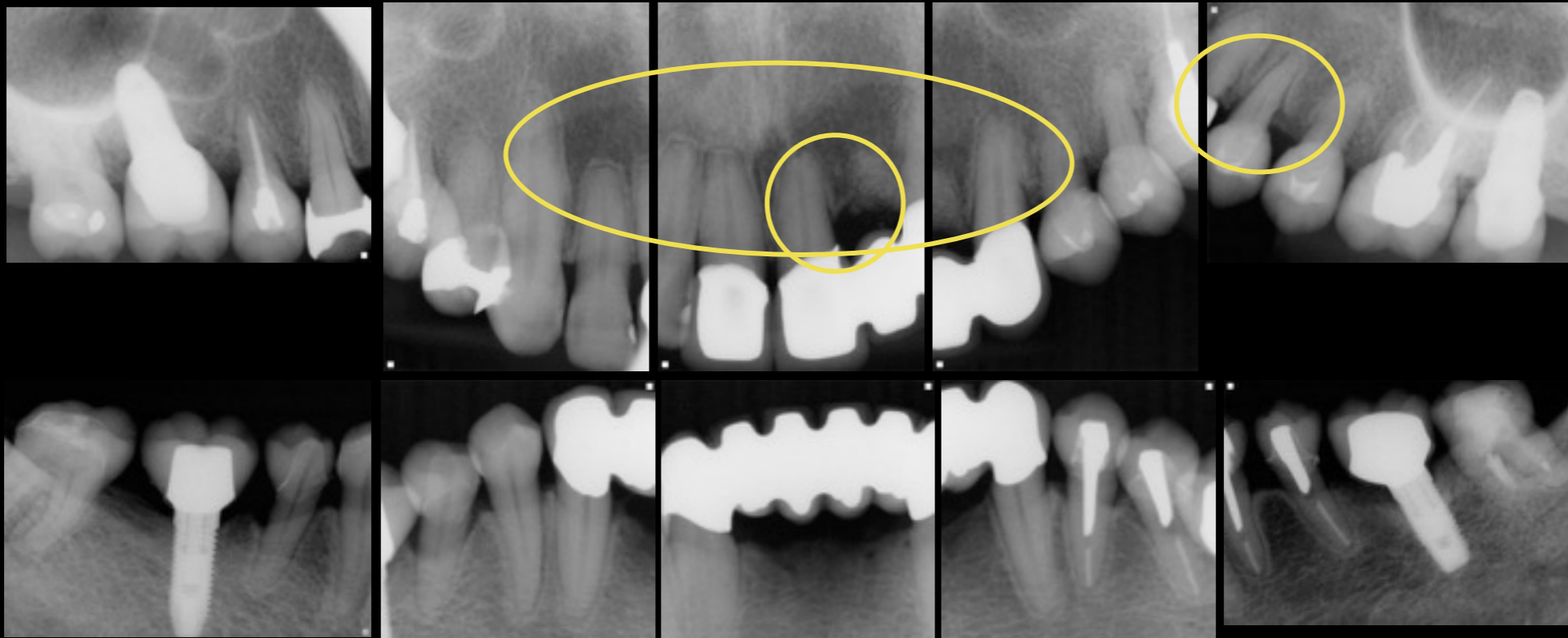
最終補綴物



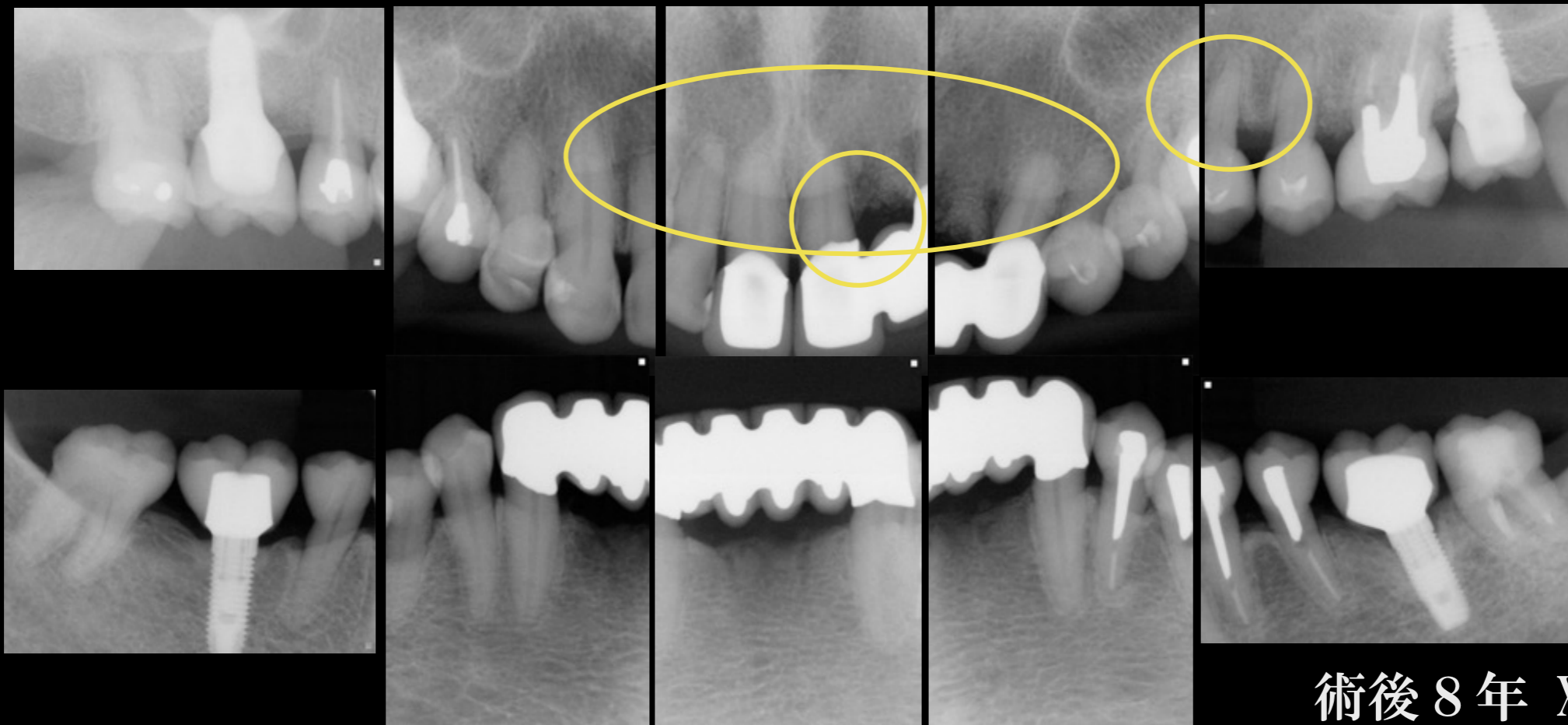
最終補綴装着 8 年後



最終補綴装着 8 年後



術後X-ray



術後8年 X-ray



初診時



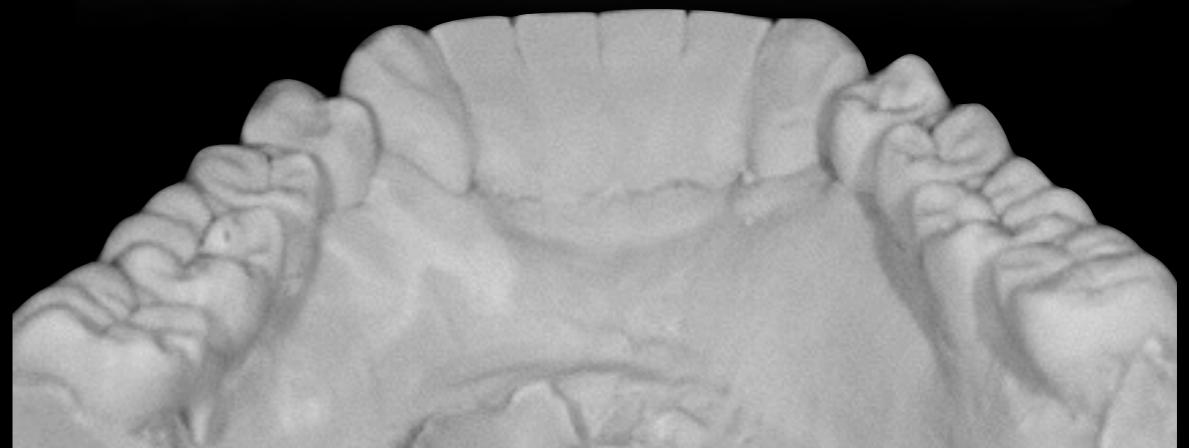
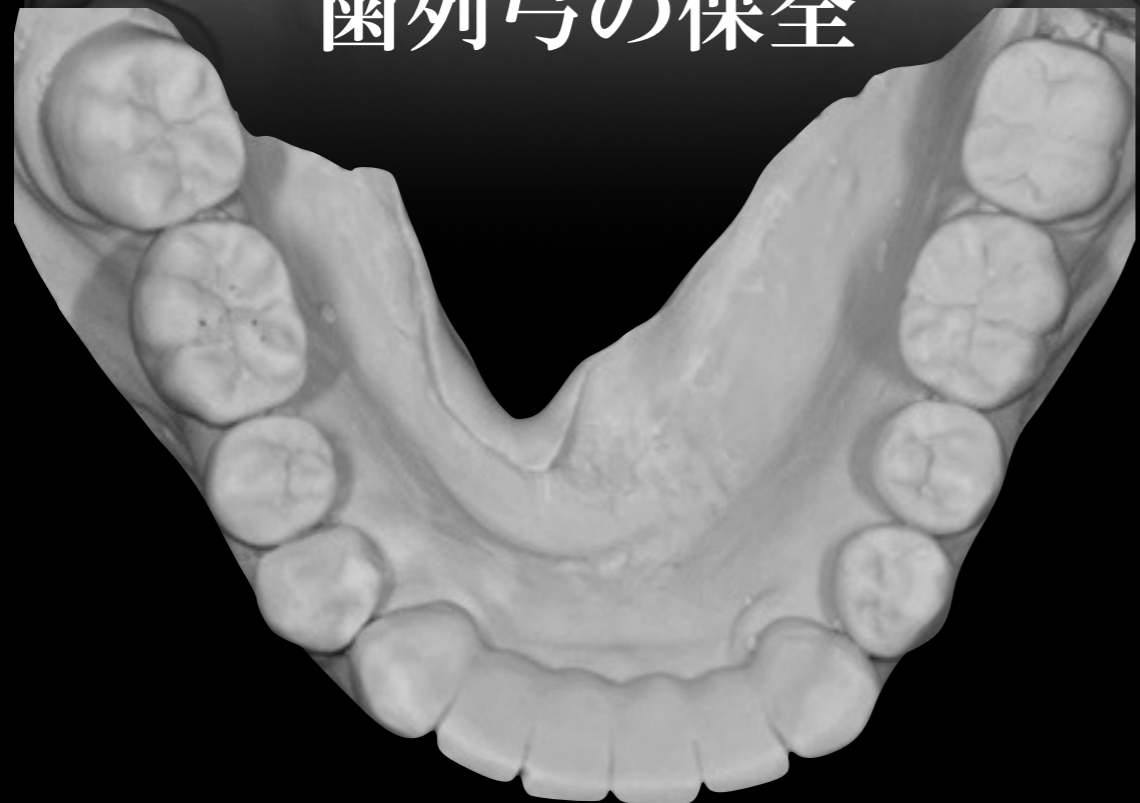
最終補綴装着後



最終補綴装着 8 年後



歯列弓の保全



咬頭嵌合位の安定

Conclusion

今回の症例におけるインプラントの役割は、
動揺歯をコントロールすることによって
歯列弓を保全し、咬頭嵌合位を安定させることにあった

その結果、クロスアーチスプリントを回避することができ、
残存歯が保護され、補綴設計も簡素化された

補綴治療におけるインプラントの役割

歯列弓の保全

残存歯の保護

補綴設計の簡素化